

# 緑ゆたかな 甲府山の手七福神 ごゆるりと ご参拝ください

**恵比寿神** 神道  
商売繁盛 五穀豊稔  
**御崎神社** みさきじんじや

甲府市美咲 2-10-34 TEL.055 (252) 4519



拝殿



恵比寿像

初め武田氏が石和へ居を構えた時、守護神として館内に祀られました。その後永正16(1519)年に武田信虎公が躑躅が崎に居を移し築城した際に三の郭内に神殿が建立され、武田家代々の尊崇する神社となりました。

天正3(1575)年塔岩地内に再建されましたが天正10(1582)年壬午年の乱にて大破。徳川氏の代になり、文禄3(1594)年甲府城築城の際、現在地に神領を賜り御遷座、甲府城の守りと甲府北部一帯の氏神と定められました。

**福祿寿** 真言宗醍醐派 法性山  
福德円満 延命長寿  
**玄法院** げんぼういん

甲府市天神町 2-18 TEL.055 (252) 2208



本堂



福祿寿像

大永年間(1521~)甲斐国城主武田信虎公の命により、北巨摩郡下黒沢から府中躑躅が崎の西、峰本(相川地区)に草庵をかまえました。信玄公の法名「法性山信玄」から山院号を賜り法性山玄法院と称し、武田家三代領主が本尊不動明王に戦勝祈願をした寺です。武田家滅亡後は、徳川幕府より現在地の御領を賜り寺を移築し、真言宗醍醐派京都三寶院の末として当山派修験の法流を現在につなげています。毎年3月末の例大祭では、本堂前に護摩木が組まれ火祭り祭典「柴燈護摩供」が行われます。

**寿老人** 真言宗醍醐派 青龍山  
健康長寿  
**行蔵院** ぎょうぞういん

甲府市元紺屋町 9 TEL.055 (252) 3181



本堂



寿老人石像

本尊の不動明王は「武田不動尊」と言い習わされています。また、これとは別に総丈10センチ足らずの念持佛「不動明王像」があり、武田家軍師山本勘助が三河の国遠征より帰途に携行したもとして祀られています。

寛文13(1673)年に実仙という修験僧により開山、現在まで14代とされていますが、甲府空襲で堂宇ならびに文献の一切を焼失したため、これらについての詳細は不明です。真言宗醍醐派の末寺として、不動尊御縁日の毎月28日には不動護摩法要が勤修されています。

**毘沙門天** 真言宗智山派 真如山  
必勝開運 子孫繁栄  
**華光院** けこういん

甲府市元紺屋町 33 TEL.055 (252) 1133



本堂



毘沙門天像・聖徳太子像

武田信虎公が大永年間に(1521~28)に荒神堂を建て、堂守に山伏を置いたのが始まりといわれています。天文10(1541)年信玄公が現在地へ移し祈願所とし、真如山華光院良林寺と名付けたと伝わっています。ご本尊はかまどの神の「三寶荒神」様です。毘沙門堂(太子堂)は、享保9(1724)年柳沢吉里公が大和郡山に転封となったときに甲府城内より移築したものであり、甲府城の遺構として現存する唯一の建物です。境内では4月の第2日曜日に山伏による「火渡り祈願」が執り行われています。

## 甲府山の手七福神巡拝

七福神とは、毘沙門天、寿老人、福祿寿、恵比寿神、弁財天、布袋尊、大黒天の七つの神様の総称です。七福神を巡拝すると、七つの災難(太陽、星の異変、風水害、火災、干ばつ、盗難)が除かれ、七つの幸福(威光、寿命、人望、清廉、愛敬、度量、富裕)が授かるといわれています。この信仰は室町末期頃より生じ、江戸期には庶民の間で盛んとなり、現代にも生き続いています。

## 参拝のご案内

甲府山の手七福神会では、年間を通じて御尊像へ参拝いただけます。御朱印を用意し、皆様のご参拝をお待ちいたしております。各所にある特製台紙をご購入いただき、七か所巡ると七福神の朱印が勢揃いいたします。台紙にて巡拝成満された方には御守をお授けします。

- ・御参拝・御朱印受付は、各所午前10時から午後五時まで。
- ・特製折り畳み台紙五百円・御朱印料一カ所三百円をお納めください。
- ・巡り順路は、お好きなところから巡ってください。
- ・所要時間は徒歩で120分程です。
- ・お問い合わせは各所へ。

**大黒天** 真言宗智山派 福田山  
開運招福 財運隆昌  
**塩澤寺** えんたくじ

甲府市湯村 3-17-2 TEL.055 (252) 8556



全景(山門・本堂)



福田大黒天像

「厄地蔵さん」と呼ばれ親しまれている地蔵菩薩を祀る寺です。毎年2月13、14日には数万人の参拝者で賑わう大祭が行われています。その縁起は808年弘法大師が諸国行脚の折り、当地にて厄除地蔵菩薩の靈験を悟り、自ら六寸余り(約20センチ)の座像を彫刻し開眼したのが始まりとされています。955年空也上人(踊り念仏高僧)は同菩薩の靈験に驚嘆し六尺余(約2メートル)の石造地蔵菩薩像を建立し福田山塩澤寺としました。1266年蘭溪道隆禅師が再興、江戸期良純親王が祭りを隆盛にしました。境内には、疫病退散平癒の祇園天神を祀った小社もあります。

**布袋尊** 湯村温泉郷 杖温泉  
家庭円満 平常心堅固  
**弘法湯** こうぼうゆ

甲府市湯村 3-16-16 TEL.055 (252) 5105



前景



布袋尊像

大同三(808)年、弘法大師様が諸国行脚の途中、湯村に立ち寄られました。大石が道をふさぎ、旅人が困っているのをご覧になった大師様は、経を唱え、持っていた杖で大石を退かしました。そこから湯が湧き、旅人の疲れを癒した事から、「杖温泉 弘法湯」となりました。

人々の安寧と福を願い、布袋尊をお祀りしています。泉質はナトリウム塩化物泉。筋肉等の慢性疲労、胃腸機能の低下やストレスによる諸症状の緩和に効果があります。

**弁財天** 日蓮宗 妙清山  
知恵財宝 学芸成就  
**清運寺** せいうんじ

甲府市朝日 5-2-11 TEL.055 (252) 4212



本堂



弁財天像

応長元(1221)年に秋山与一郎隆晴が屋敷にお堂を建てたことに始まり、その後、隆晴の末孫秋山孫四郎が出家得度し、明応9(1500)年4月28日に清運寺を創立しました。清正公堂に所願成就の神、清正公(加藤清正公)像が祀られていて、毎年7月には縁日が開かれ「せいしよこさん」の寺として親しまれています。また、清正公堂には商売繁盛を願うお産稲荷、願かけ石のおなで石も祀られています。墓地には、坂本龍馬の許嫁だった千葉さな子さんの墓があります。

**大黒天** (だいこくてん)  
元はインドの戦いの神ヴァア神であるといわれています。日本においては、大黒主命と同一神とされ、全身の色が黒く、福を入れた袋を背負い、手には財宝を出す「打ち出の小槌」を持っている。開運招福、財運隆昌の徳がある。



**布袋尊** (ぼていせん)  
七福神中で唯一実在した神僧。大きなお腹と大きな袋、常に笑顔。袋に人生に必要な福財が詰まり、人々に福を授けて回った。袋は堪忍袋とも言われ、大きな心で物事や人を包んだと言う。家庭円満、平常心堅固の徳がある。



**弁財天** (べんざいてん)  
唯一の女神で、元はインド河(水)の神であった。やがて音楽・言語の神となり、その後日本に伝わり財宝・芸能に関係の深い吉祥天の性格が吸収されたといわれる。学芸成就・知恵財宝・愛嬌縁結びの徳がある。



**恵比寿** (えびす)  
大黒主命の子息、事代主命(トシロノヲシノミコト)であるといわれています。七福神の中で唯一の日本の神様。古来より海の神として崇められ、福を表す「鯛」と、「釣り羊」を手に持っている。商売繁盛、五穀豊稔の徳がある。



**福祿寿** (ふくろくじゅ)  
その名のとおり、「福」は幸福、「祿」は衣食住を満たしてくれ、「寿」は長寿の三徳を備えた神様である。鶴亀を伴っていて、あらゆる福寿の神様として知られ、特に徳を招く人望を授けてくれる。福德円満、延命長寿の徳がある。



**寿老人** (じゅろうじん)  
古代中国の思想家老子は天に昇って南極老人星という星になったといわれ、寿老人はこの星を人格化したものである。神様の使いとされる鹿を連れ、長寿の象徴の桃の実や人の寿命が書かれた巻物を持った杖を持つといわれている。健康長寿の徳がある。



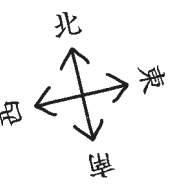
**毘沙門天** (びしゃもんてん)  
財運の神であり、中国や日本では仏様を守護する四天王の一人で、戦いの神様でもある。毘沙門とは、多聞と訳し、多くの人々の願いを叶えるという。多くの物を有する豊かな神で必勝開運、家運隆昌、子孫繁栄の徳がある。



こうぶくをさがしに

# 甲府山の手七福神めぐり

山梨県



大黒天  
塩澤寺  
布袋尊  
弘法湯

旅館明治  
湯谷神社  
湯村温泉郷  
ゆかりの人物資料室  
セブンイレブン  
甲府記念日ホテル  
湯村温泉病院  
湯村温泉入口  
バス停



開府五百年・改元という節目の年に  
甲府北部七か所にて七福神をお祀りして  
「甲府山の手七福神」を開創致しました。  
災難消除・開運招福の拠り所として  
ご巡拜ください。

緑が丘  
スポーツ公園

相川

山梨大学附属小  
山梨大学附属中  
北新小  
山梨大学  
国立甲府病院

恵比寿神  
御崎神社  
福寿院

福祿寿  
玄法院

毘沙門天  
華光院

寿老人  
行蔵院

弁財天  
清運寺

朝日通り

甲府駅

舞鶴通り

甲府城跡

甲府山の手七福神めぐり事務局  
塩澤寺 ☎055 (252) 8556

